

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

⑦プログラム構成科目

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データサイエンスⅡ(補助教材)」 ・代価値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「DSⅡ第4-7回(補助教材)」/プログラミング課題その1「実践データサイエンス(第4-6回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/海洋気象数値解析演習(第3回)」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンスⅡ(補助教材)」/実践データサイエンス(第10-11回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/海洋気象数値解析演習(第8回)」 ・確率分布、正規分布、独立同一分布「海洋気象数値解析演習(第3、4、6回)」 ・補無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の過誤、第2種の過誤、p値、有意水準「海洋気象数値解析演習(第4、5回)」 ・ベクトルと行列「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第14回)」 ・ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第14回)」 ・行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第14回)」 ・逆行列「データサイエンスⅡ(補助教材)」 ・固有値と固有ベクトル「海洋気象数値解析演習(第14回)」 ・多項式関数、指数関数、対数関数「数学基礎(第2回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」 ・関数の傾きと微分の関係、積分と面積の関係「数学基礎(第1、3回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」 ・1変数関数の微分法、積分法「数学基礎(第5-8回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」
	1-7	・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)・計算量(オーダー)「プログラミング(第1-2回)」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンスⅡ(第4-15回(体験型学習))」/「プログラミング(課題その2)」/「バイオンフォマティクス(第1-2回、7-8回)」
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンスⅡ(第3回+補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第2、11回)」/水産情報利用学(第9回)」/海洋情報学実習(第3回)」 ・画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「水産情報利用学(第9回)」 ・数値型、整数型、浮動小数点型「プログラミング(第1回)」/「バイオンフォマティクス(第5-6回+補助教材)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋気象数値解析演習(第1回)」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「プログラミング(第2回)」/「実践データサイエンス(第4-6回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第1回)」 ・配列、関数、引数、戻り値「プログラミング(第3-5回)」/「実践データサイエンス(第7-9回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋気象数値解析演習(第1回)」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「海洋情報学実習(第3、4回)」 ・プログラムの設計手法「海洋情報学実習(第3、4回)」
	2-7	
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0「データサイエンスⅡ(第1回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「水産情報利用学(第1回)」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンスⅡ(第2-3回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「海洋情報学実習(第1回+第1回事前学習)」 ・データを活用した新しいビジネスモデル「水産情報利用学(第15回)」
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンスⅡ(第1回+補助教材)」/「データサイエンスⅡ(第12-15回)」/「実践データサイエンス(第3回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「卒論スタートアップ演習(第4回)」/「海洋情報学実習(第13、14回)」/「生命機能化学演習Ⅰ(第2回+補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(第2回+補助教材)」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスティングなど)「データサイエンスⅡ(第6-7回)」/「海洋気象数値解析演習(第13回)」/「海洋情報学実習(第13、14回)」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンスⅡ(第4回)」/「海洋情報学実習(第15回)」 ・データの収集、加工、分割/統合「海洋気象数値解析演習(第2回)」/「海洋情報学実習(第3-10回、第13、14回)」
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データサイエンスⅡ(第1-2回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「水産情報利用学(第3回)」/「海洋情報学実習(第1回)」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データサイエンスⅡ(第1回)」/「海洋気象数値解析演習(第11回)」/「水産情報利用学(第8回)」/「海洋情報学実習(第11回)」 ・ビッグデータ活用事例「データサイエンスⅡ(第2回)」/「バイオンフォマティクス(第1-2回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「データサイエンスⅡ(第1回)」/「水産情報利用学(第11回)」 ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「データサイエンスⅡ(第3回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」 ・AI技術の活用の広がり(教育、芸術、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「水産情報利用学(第14回)」
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「データサイエンスⅡ(第1回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「卒論スタートアップ演習(第2回+補助教材)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」 ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性、AIの安全性「卒論スタートアップ演習(第2回+補助教材)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「データサイエンスⅡ(第2-3回)」/「実践データサイエンス(第12回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「データサイエンスⅡ(第2回)」/「実践データサイエンス(第13回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「データサイエンスⅡ(第3回)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」 ・ニューラルネットワークの原理「データサイエンスⅡ(補助教材)」/「実践データサイエンス(補助教材)」/「フューチャー・アース論(第3-15回)」/「水産情報利用学(第11回)」
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳、要約、執筆支援、コーディング支援など)「実践データサイエンス(補助教材)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」/「卒論スタートアップ演習(第2回+補助教材)」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「水産情報利用学(第11回)」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成、氾濫など)「実践データサイエンス(補助教材)」/「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」/「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」 ・敵対的生成ネットワーク(GAN)「水産情報利用学(第11回)」
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習「実践データサイエンス(補助教材)」/「バイオンフォマティクス(補助教材)」 ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「水産情報利用学(第14回)」

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実態・評価」から構成される。	I	1-7 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「データサイエンスⅡ(第4-15回(体験型学修))」「プログラミング(課題その2)」 「バイオインフォマティクス(第1-2回, 7-8回)」 2-2 ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンスⅡ(第3回+補助教材)」 「フューチャー・アース論(第3-15回)」 「海洋気象数値解析演習(第2, 11回)」 「水産情報利用学(第9回)」 「海洋情報学実習(第3回)」 2-7 ・文字型、整数型、浮動小数点型「プログラミング(第1回)」 「バイオインフォマティクス(第5-6回+補助教材)」 「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」 「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」 「海洋気象数値解析演習(第1回)」
	II	1-2 ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンスⅡ(第1回+補助教材)」 「データサイエンスⅡ(第12-15回)」 「実践データサイエンス(第3回)」 「フューチャー・アース論(第3-15回)」 「卒論スタートアップ演習(第4回)」 「海洋情報学実習(第13, 14回)」 「生命機能化学演習Ⅰ(第2回+補助教材)」 「海洋生命化学演習Ⅰ(第2回+補助教材)」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データサイエンスⅡ(第6-7回)」 「海洋気象数値解析演習(第13回)」 「海洋情報学実習(第13, 14回)」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンスⅡ(第4回)」 「海洋情報学実習(第15回)」 3-5 ・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)「実践データサイエンス(補助教材)」 「生命機能化学演習Ⅰ(補助教材)」 「海洋生命化学演習Ⅰ(補助教材)」 「卒論スタートアップ演習(第2回+補助教材)」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

自らの専門分野に関わる実データ・実課題に対して、データから意味を抽出する能力、倫理面も含めて適切に配慮したデータ活用やAI導入の可能性を考えることができる能力、および数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を得ることができる。
--

五(和歷)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	796	人
(非常勤)	493	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

51	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	淀 太我
(役職名)	学部教務委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会
------	------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会内規
------	--------------------------

⑥ 体制の目的

三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会は、生物資源学部の教務に関する事項について審議する組織で、各コース・専修から委員を選出している。

学部教務委員会で審議した事項は、教授会に附議されるとともに、必要に応じて各コース・専修で開催しているコース会議や専修会議へ各委員から報告され、情報共有がなされる。

本プログラムの改善・進化に関する事項についても、学部教務委員会で審議したうえで、教授会や各コース・専修での会議で審議・情報共有されることにより、学部全体としてプログラムの遂行に取り組む体制となっている。

⑦ 具体的な構成員

生物資源学研究科	教授	淀 太我(学部教務委員長, 海洋生物資源学専修)
生物資源学研究科	教授	松井 宏樹(農学専修)
生物資源学研究科	助教	内迫 貴幸(森林科学専修)
生物資源学研究科	准教授	吉原 佑(農学専修)
生物資源学研究科	准教授	西井 和晃(海洋生物資源学専修)
生物資源学研究科	教授	福島 崇志(農業工学専修)
生物資源学研究科	教授	渡邊 晋生(農業工学専修)
生物資源学研究科	准教授	岡咲 洋三(生命機能化学専修)
生物資源学研究科	助教	水谷 雪乃(海洋生命化学専修)
生物資源学研究科	准教授	金岩 稔(海洋生物資源学専修)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	25%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本プログラムは令和6年の学科改組にともなって令和7年度に設置されたため、改組の学年進行中であり修了者はいない。本プログラムを構成する授業科目は、本学の共通教育必修科目2科目を必須とし、専門選択科目10科目から構成され、そのうちの5または6単位を取得することで修了できる。つまり、本プログラムの必須科目は学部生全員が履修・単位習得し、選択必須科目は卒業に必要な選択必修科目（農林環境科学コース農業工学専修、海洋生物資源学コース）、選択科目（農林環境科学コース農学専修および森林科学専修）、およびそれらと自由科目（卒業に必要な単位として認められる）を組み合わせて履修（生命化学コース）することができる。総合コースの学生は、必須2科目4単位を取得して2年次より他のコースに移るため、生物資源学部全体でプログラム履修率100%を達成できる可能性がある。選択必須科目に選択・自由科目を含むことができるコース・専修では履修しない学生が現れると予想されるが、2年次、3年次学生に対するガイダンス等を行うことにより履修率の向上を図る。また、3年次に開講されている演習系の科目をプログラムに含めることで、卒業研究に入る前に必須科目であるデータサイエンスⅡにおいて、オンデマンド学習したデータサイエンスやAIに関する学修項目を再度学ぶことで、プログラム修了意欲を高めるよう工夫することを考えている。新規履修者数を維持していくとともに、修了者数の増加を見込んでおり、履修の継続率は向上することが予測できる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムを構成する授業科目は、本学部の共通教育必修科目2科目と専門選択科目10科目から構成されており、本学部の学生は全員履修可能である。共通教育はすべての学部生が共通で学ぶ科目である。また、三重大学では、規則上、他学部の専門教育科目を自由科目として受講・単位取得することで卒業に必要な単位数に含めることができる（生物資源の場合は10単位以内）。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

生物資源学部1年生が週1回全員参加する「生物資源活動タイム」においてプログラムの周知を行う。プログラムの1年次開講科目はいずれも学部学生の必修科目のため、入学時のガイダンスよりも、学期中に複数回、特に1年次の最後、2年次進級前に周知することで、より効果が高まると考えられる。また、プログラム必修科目「データサイエンスⅡ」の授業時間において、生物資源学部の全学生を対象に改めて応用基礎レベル認定に係る履修方法を説明している。全学的には、全学部で認定されているリテラシーレベルプログラム「データサイエンス学修プログラム」内容の点検・評価と深化・改善を担う情報部門のホームページにてプログラム内容を掲載する。また、三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会を通して、各コース・専修へ所属学生に対する本プログラムの周知を依頼する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

演習科目ではTAを配置し、授業中にきめ細かい学習支援を行っている。
また、三重大大学では大学院生が「データサイエンスサポート」を実施しており、データサイエンスの講義に関する質問等への対応を 平日 12:00～16:30 の時間帯で行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学生からの質問に対しては、オフィスアワーを設定して学生対応の時間を設定すると共に、メール等で授業担当教員が速やかに返答できる体制を整えている。

また、三重大大学では、教職員や大学院生が「ICTサポート・データサイエンスサポート・ラーニングサポート」を実施しており、以下のようなサポート活動を行っている。

・ICTサポート

大学生生活でのICTに関することなど。(例: パソコンの設定方法, スマホやクラウドの活用, 情報セキュリティ等)

・データサイエンスサポート

データサイエンスⅠ・データサイエンスⅡの講義に関することなど。(大学院生が学部生と一緒に学びながら問題を解決します)

・ラーニングサポート

参考引用文献の書き方, 文献の検索方法, 文献整理術, レポートの組み立て方, プレゼンテーションの組み立て方, 地域資料の収集・活用方法等, 三重大大学における学びに関することなど。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会
教育推進・学生支援機構情報部門

(責任者名) 淀 太我 / 末原憲一郎

(役職名) 学部教務委員長 / 情報部門長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		三重大学大学院生物資源学研究科学部教務委員会において、毎年度本プログラムの履修者数・単位修得状況・成績分布について分析を行い、改善のための意見交換を行っている。本学部の教授会や各コース・専攻で開催しているコース会議・専修会議などにおいても改善のための情報共有を行っている。 また、全学組織である教育推進・学生支援機構情報部門には、本研究科・学部所属教員3名が部門長およびその構成メンバーとして参画しており、全学リテラシーレベルを含めたデータサイエンス教育の連続性を担保できる仕組みづくりを考えている。
学修成果		本教育プログラムを構成する授業科目はすべてシラバスにおいて明確な到達目標及び全学DPの「4つの力」別の学修率(令和6年度入学生以後適用)が示されており、それに基づいて成績評価及び、教務基幹システム「UNIVERSAL PASSPORT RX」の学修ポートフォリオ機能で、各科目の学修度の積算による学修成果のレーダーチャートでの可視化(全学DP及び学部DPのそれぞれの学修度を可視化、令和6年度入学生以後適用)が行われており、在学は常時確認できる。また、上述のとおり教務委員会において、毎年度本プログラムの履修者数・単位修得状況・成績分布について分析と改善のための意見交換を行い、学部構成員に情報共有を行うことで学修成果に対する評価を行うことができる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		履修生の学修内容の理解度は、各授業科目について全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)で把握できる。授業中にも授業改善アンケートを回答できるようにする等、回答率向上の取組を進めることで、アンケート結果の精度を高める取組を進めている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)の結果(評価点の平均)は学内へ公開されており、満足度に関係する「この授業の受講によって、学業への興味・関心(意欲)が高まった。」「総合的に判断して、この授業に満足できた。」の質問項目の評価点が向上するような内容とするため、学部教務委員会および教授会、各コース・専修にて開催している会議において報告され、改善に向けた分析・検討を行うことができる。アンケート結果の分析は、全学のリテラシーレベルプログラムのアンケート分析結果とともに教育推進・学生支援機構情報部門のホームページに掲載する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本学部の履修者数・履修率向上のため、全学共通の内容を学修する大学の必修科目であるデータサイエンスⅠ・Ⅱにおいて、リテラシーレベルの発展的内容として専門教育への橋渡しを意識した内容の強化を行った(令和9年度以降の全学リテラシーレベル再認定に向けた取り組みの一環)。データサイエンスⅠ・Ⅱの授業(Ⅱは本プログラムの必須科目)の中で応用基礎レベル教育への意識づけを行っている。プログラムの学年進行中であるためプログラム修了者はまだいないが、今後はそれぞれの専門に合わせたデータサイエンス・AIに関する内容(選択必須科目群A)を学んだうえで、卒業研究に入る前の演習(選択必須科目群;各コース・専修に応じて1科目を選択)にて再度の意識づけを行うとともに、学んだ内容を卒業研究などに活用する方向づけを行うことで、履修者数・履修率の向上と修了者の増加を目指す計画としている。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		令和7年度に開設したプログラムで、修了要件に3年次の専門科目が含まれているため修了者がまだ出ていないが、本プログラム修了者に対して、卒業時アンケート等で、履修した内容が進路に役に立ったか等を調査し、分析することで、次年度の授業改善に活用する。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	全学的には、データサイエンス実践演習(三重大と地元企業EBILABとで担当)を実施しており、三重大側との総括は生物資源学部教員で情報部門長が務めている。DXを推進している地元企業の方々との意見交換および評価を通じた教育プログラムの改善を行う。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		プログラムを構成する科目のうち最初に受講する「数学基礎」においては、データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎を学び、「データサイエンスⅡ」では、社会情勢とテクノロジーの進化、データ活用の可能性など、当該学問分野が期待される背景を解説するとともに、実際の応用例や研究成果を紹介し、学習の動機づけを行っている。データサイエンスⅡは、本学全体で認定を受けているリテラシーレベル(令和4年度～8年度)の主要科目ではあるが、リテラシーレベル再認定(令和9～11年度)に向けて応用基礎レベルとのつながりを意識した改訂を令和7～8年度にかけて行っている。その一環で、今回の生物資源学部の応用基礎申請に合わせて令和7年度より応用基礎関連項目のオンデマンド教材の補強を行い、令和8年度にさらに改革を行う計画である。これにより、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることに努める。また、学年進行中でまだ履修者はいないが、3年次(卒業研究に入る前)に設定した「各種演習科目(選択必須科目群Bとして1科目を必ず選択)」において、データサイエンスⅡで行った動機づけを再度行うことで、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を再認識させる計画となっている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		自己点検・評価として、授業科目ごとに学生の「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を行っているだけでなく、毎年度三重大大学院生物資源学研究科学部教務委員会が中心となって各授業科目の成績分布等を含めて一つ一つの授業を分析し、教授会などにおいて情報共有し、意見交換する機会を設けることで、学生にとってより分かりやすい授業となるよう改善に取り組んでいる。 また、教育推進・学生支援機構情報部門においても情報共有し、文部科学省の公表する数理・データサイエンス・AI教育の動向についても常時共有した上で、社会状況に合った授業内容について協議・連携してシラバス内容へ反映、更新することで、よりわかりやすい授業となるよう改善を継続する。

大学等名	三重大学（生物資源学部）	申請レベル	応用基礎レベル（学部・学科等単位）
教育プログラム名	三重大学生物資源学部数理・データサイエンス・AI学修プログラム	申請年度	令和8年度

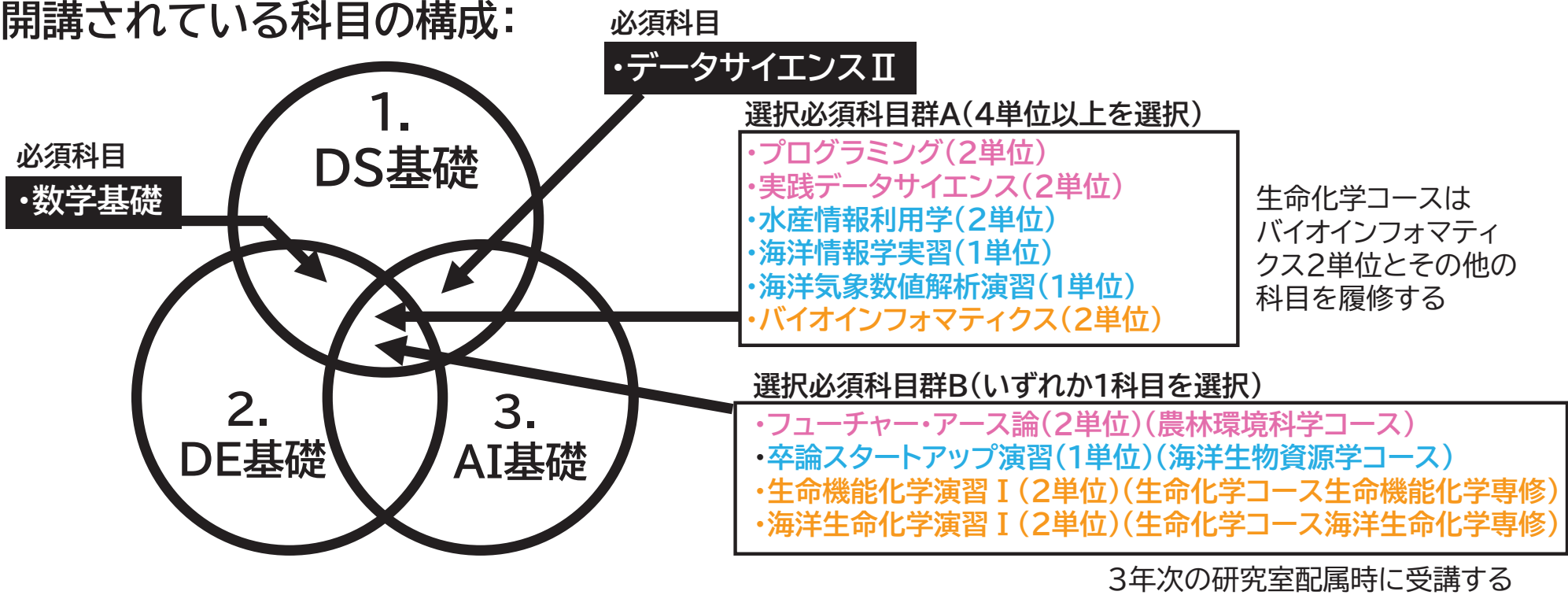
取組概要

プログラムの目的： 生物資源学に関連したデータサイエンス・AI活用能力を涵養する

身に付けられる能力：

自らの専門分野に関わる実データ・実課題に対して，データから意味を抽出する能力，倫理面も含めて適切に配慮したデータ活用やAI導入の可能性を考えることができる能力，および数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を得ることができる。

開講されている科目の構成：



修了要件： 必須2科目4単位＋選択必須科目群A4単位以上＋選択必須科目群B1科目1単位以上を選択して単位を取得すること(5または6科目9単位以上)